

平成30年度（2018年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No.1

公募により選定した指定管理者「NPO法人市民ネットすいた」により、以下の事業を実施
平成30年度（2018年度）交流スペースを含む施設利用者は63,923人

1 施設の使用許可業務

会議室、事務ブース、メールボックス、ロッカー、物品棚の使用許可及び使用料の徴収

2 相談事業

- ① 一般相談：市民公益活動団体の運営に関する相談、市民公益活動への参加や市民公益活動団体による支援を希望する市民からの相談など。
(随時、相談297件)
- ② 専門相談：税理士による会計・税務相談（開催4回、参加者5名）。認定NPO法人と連携してのプロボノ制度の整備も開始。
- ③ NPO法人相談：窓口で随時対応したほか、NPO法人設立講座終了後に個別相談に対応。
- ④ IT座談会：個別相談に加えて、座談会形式で参加者同士の交流を図った。（開催4回、参加者17名）

3 情報提供・広報支援事業

- ① ウェブサイト：当施設の開催事業案内、市民公益活動団体情報、施設運営に関する情報公開など。Facebookも活用。
- ② ニュースレター：事業報告及び講座・イベント等の案内、特集記事を掲載、4回発行（各2,500部）
配付先：市民公益活動届出団体、施設利用者、市の関連部署、市内公共施設、市内地縁組織、他市の間接支援組織など
- ③ ちらし同封サービス：ニュースレターを配付する際、市民公益活動団体のちらしも同封するサービス。団体・事業の紹介をし、市内に広めた。
配付先：市民公益活動届出団体、施設利用者、市の関連部署、市内公共施設、市内地縁組織、他市の間接支援組織など
- ④ 市民公益活動団体ガイドブックの更新管理：前回発行の冊子の更新発行（800部）。ウェブサイトの情報を随時更新。
- ⑤ メールマガジン：センターの事業案内、助成金情報、市民公益活動団体等のイベント情報やボランティア情報等、2週間に1回発行。
対象：市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政

平成30年度（2018年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No.2

4 講座・研修事業

講座名	実施回数・内容	参加者数
ボランティア・NPO 初歩講座	12回 少人数の受講者を対象に市民公益活動の基本的なことを解説し、個別相談にも対応。NPO 活動やボランティアグループのデビューのきっかけもつくることのできた。	57名
地域活動デビュー講座	1回 「ソーシャルな活動をはじめよう！」をテーマに、eNカレッジすいたのアウトロ講座として開催。	16名
NPO・ボランティアグループデビュー講座	1回 「つながりづくりの始め方・楽しみ方」をテーマに、eNカレッジすいた修了生のフォローアップを兼ねた講座を開催。	9名
公益活動向けの法人化講座	4回 公益活動団体の法人化の支援を図るとともに、これから公益活動に取り組んでいく方の法人化への理解を深めるための講座を開催。	27名
会計・税務に関する講座	2回 会計の仕組みを学ぶ学習編と、税理士に指導を受けながら決算書類を作成する実地編を実施。	9名
団体情報の発信に関する講座	3回 チラシ、Facebook ページの作成方法など、具体的な広報手段として役立つ講座と基礎について学ぶ講座を実施。	39名
財源の確保に関する講座	3回 補助金、助成金、会員拡大、自主事業財源などをテーマにした講座。吹田市市民公益活動の支援補助金説明会も実施。	52名
NPO・ボランティアグループ運営講座	3回 コミュニケーションに特化した講座（エンパワーメント、アサーティブ）のほか、個人情報の取り扱いについて学ぶ講座を実施。	42名
地域コミュニティ運営講座	3回 シビックテックの可能性について考える鼎談会を開催。また、地域との関わり方や市民自治について学ぶ講座を開催。	100名

平成30年度（2018年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No.3

5 交流・連携促進事業

交流・連携事業名	実施回数・内容及び目的		参加者数
かえっこバザール プレイベント	1回	市民参加により企画・運営。使わなくなったおもちゃを捨てずに再利用することで、環境負荷を低減すると同時に世代間交流を通じて、地域の活性化を図るこのイベントは、子供たちに主体性を育む幅広い体験の機会を提供し、また、プラザ内各施設の連携促進、にぎわいづくりにも貢献。	18名
かえっこバザール 本番	1回		約615名
歳末ボランティアフェア	1回	登録ボランティアを中心とした実行委員会形式で、市民公益活動団体や登録ボランティアの活動を紹介して、ボランティア募集を実施。	約35名
団体交流会	2回	市民公益活動団体、事業者、行政を交えた交流会を実施。団体活動へのヒントを得たり、支援機関や他団体と連携して事業を行ったりするきっかけづくりを行った。	63名
市民協働マッチング	随時	市民協働のニーズを受け付けて、ウェブサイトやメールマガジンなどで広報し、分野やセクターを越えた連携・マッチングの支援ができる状況を整えた。	—
現場で学ぶ団体運営学習会	随時	相談等事業で、相談者に活動事例を知ってもらうことが有効と思われるケースについて、市民や団体が先駆者の経験と活動の現場を直接見聞きできる機会を作った。	—
テーマカフェ	12回	特定のテーマで自由に語り合える「カフェ」を開催し、関心のある人たちが集まる交流の場を提供。テーマ：「高齢者の閉じこもり」「市議会見学会」「防災まちづくり」「男性介護者」等	143名
「このゆびとまれ」の会	随時	市民公益活動でやりたいことが具体的にある個人に対して、団体やプロジェクトの立ち上げ支援や運営サポートを実施。	—
地域コミュニティラボ事業	3回	地域力を高めるため、地縁団体などの地域コミュニティを支える団体のマネジメント力などの強化や、活動に役立つスキルの向上を図った。	144名
おすそわけマーケット	常設	ひと昔前なら日常にあった「おすそわけ」の習慣や近所づきあいをセンターで復活させるプロジェクト。おすそわけから始まる新しい地域コミュニケーションとして、利用者の層を広げた。	—
プロボノワーカー説明会	1回	プロボノ活動への参加の疑問を解消するのと同時に、支援を希望するNPO・地域団体を募集するための説明会を開催。プロボノという新しいボランティアのスタイルについて知る機会を作った。	11名

その他、東日本大震災により吹田市に避難された方の相談窓口を開設。

平成30年度（2018年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No.4

6 調査・研究・政策提言など市民公益活動の社会的環境整備を行う事業

地域自治組織の担い手不足を解消するため、役員向けのハンドブック「地域自治組織運営トリセツ」を作成。（1,500部）

7 施設運営について

① 利用者懇談会：施設利用者にセンターの運営や利用、サービスに関しての意見を出してもらい運営に反映。4回開催。

② ボランティア制度：登録ボランティア（ラコルタサポーター）がニューズレターの企画編集やテーマカフェの企画進行を行うなどセンター事業への積極的な参画があった。単発短時間で取り組める「ぷちボラ」では、ボランティア体験の機会を提供、ボランティアチーム「あつめーる」では、使用済み切手やはがきの収集を行い、アフリカの植林支援のための寄付をした。

8 自主事業

① コミュニティカレッジ 「eNカレッジすいた」

地域人材育成を目的に第5期「eNカレッジすいた」を平日夜間に実施。修了生から8名がラコルタサポーターに登録をした。

② 他事業から生まれる交流・連携

施設運営の様々な場面で交流・連携を図った。相談等事業の対応結果として、交流・連携を生み出す事業の会場貸与、広報支援などのサポートを行った。また、協働マッチング事業から発展させることもできた。